

脱炭素経営促進メールマガジン

技術実証事業、ベストナッジ賞、SBT 認定、ソーラーシェア、資源消費量(2018年8月24日配信)

●平成 30 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（地域低炭素化案件形成支援事業）の公募について

地域低炭素化案件形成支援事業は、再生可能エネルギーや省エネルギーに関する高度な専門的知見・経験を持つ人材をアドバイザーとして、地方公共団体のニーズに応じて派遣することで、地域の低炭素化に資する事業の案件形成を促進するものです。専門人材を活用した技術的助言等であり、かつ、地方公共団体実行計画の策定・実施に係る課題に適切に対応する取組等について、費用を補助します。公募内容や応募内容等の詳細については、以下のリンクをご覧ください。

http://www.env.go.jp/policy/local_re/jinnzaihakenn/30.html

○公募期間

平成 30 年 8 月 20 日（月）から平成 30 年 9 月 21 日（金）17 時まで

●環境技術実証事業説明会および研修会を開催いたします

東京・名古屋・大阪の 3 会場にて、環境技術を有するメーカー及び販売者、環境技術のユーザー並びに実証機関に興味のある方を対象とし、環境技術実証事業説明会及び研修会を開催します。

本説明会及び研修会は、環境技術実証事業が平成 31 年度から制度の見直しを予定しているため、新たな制度の周知と本事業の更なる普及促進を目的としています。

開催日時や申込方法等の詳細については、環境省ホームページ（平成 30 年度環境技術実証事業説明会および研修会の開催について）をご覧ください。

<http://www.env.go.jp/press/105770.html>

▼環境技術実証事業 説明会及び研修会開催のご案内

<http://www.env.go.jp/press/files/jp/109591.pdf>

●ベストナッジ賞コンテストのご案内

このたび環境省及び BEST は、行動経済学会との連携により、「ベストナッジ賞」コンテストを実施します。本コンテストは、低炭素型の行動変容を促し、ライフスタイルの自発的な変革・イノベーションを創出する、対象者にとって自由度のある新たな政策手法を検証する

ために平成 29 年度より実施しているものです。

幅広い分野の社会・行政の課題の解決に向けて、ナッジ等の行動科学の理論・知見を活用した行動変容の促進を、地方公共団体において実施し、効果を測定した実績のある取組を募集します。

募集概要等の詳細については、以下のリンクをご覧ください。

<http://www.env.go.jp/press/105876.html>

○公募期間

平成 30 年 8 月 20 日（月）から平成 30 年 9 月 10 日（金）15 時まで

●SBT 認定取得の日本企業、26 社に増加。

8 月にかけて住友林業、アシックス、大和ハウス工業が SBT 認定を取得し、認定を取得している企業は日本国内で 26 社となっています。

環境省では、昨年度から SBT に関する勉強会、個社別面談を行う SBT 支援事業を行っており、今回認定を取得している住友林業、大和ハウス工業は昨年度の個社別面談の対象企業です。

住友林業株式会社

<https://sfc.jp/information/news/2018/2018-08-15.html>

株式会社アシックス

<https://corp.asics.com/jp/press/article/2018-08-21>

大和ハウス工業株式会社

<https://www.daiwahouse.com/about/release/house/20180807105135.html>

●ハウステンボス（株）による日本初の自家消費型ソーラーシェアリング・次世代型農業事業が環境省補助事業に採択

ハウステンボス（株）は、平成 30 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業）のうちの再生可能エネルギーシェアリングモデルシステム構築事業を活用し、日本初の自家消費型ソーラーシェアリング・次世代型農業事業（営農継続型太陽光発電）を実施します。

https://www.huistenbosch.co.jp/aboutus/pdf/180731_hbt09.pdf

●地球の1年分の資源を7か月で消費

国際的なNGOのグローバルフットプリントネットワークは、2018年における再生可能な資源の「消費可能量」を人類が使い果たしてしまう日、「地球オーバーシュートデー」が8月1日であると報告しました。つまり8月2日から12月31日までは資源を過剰消費している状態であり、それらの資源は何もしなければ再生不可能なものとしています。

人類のエコロジカルフットプリント(*1)の60%はカーボンフットプリント(*2)が占めているため、資源の過剰使用を止め、パリ協定の目標達成を目指し、気候変動対策を強化することが不可欠としています。

グローバルフットプリントネットワークは、オーバーシュート(資源の使い過ぎ)を改善するため、例えば都市分野において、「世界中で自動車での移動を50%削減しつつ、その1/3を公共交通機関・徒歩・自転車で代替すればオーバーシュートデーの到来を12日遅らせることが出来る」等、4つの主要分野(都市、エネルギー、食物、人口)について概説しています。

(*1) エコロジカルフットプリント・・・地球の環境容量をあらわす指標で、人間活動が環境に与える負荷を、資源の再生産および廃棄物の浄化に必要な面積として示した数値。

(*2) カーボンフットプリント・・・個人や団体、企業などが生活・活動していく上で排出される二酸化炭素などの温室効果ガスの可視化。

<https://unfccc.int/news/earth-s-annual-resources-budget-consumed-in-just-7-months>

環境省脱炭素促進メールマガジン

発行元：環境省地球温暖化対策課

※宛先の追加、変更、配信停止のご連絡は以下までお願いします。

decarbonize@env.go.jp

※環境省脱炭素促進メールマガジンのバックナンバーをグリーン・バリューチェーンプラットフォームで公開しています。こちらでは購読申し込み・解除もできます。

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/mail_magazine.html
